

# 目地カバー施工方法〈タキロンAM-1工法〉

## 1. 下地の確認・清掃

- 下地に割れ、欠け、極度の湾曲がある場合は施工できません。補修を行ってください。
- 砂、塵埃などを除去してください。
- 苔やカビ等の付着が多い場合には、スクレパー・デッキブラシ・亀の子タワシ等による洗浄を実施してください。

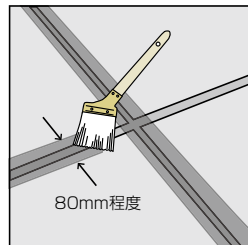
副資材標準使用量

タキボンド#607	300~400g/m <sup>2</sup>
タキボンド#625	10m/100g
タキボンド#650	6m/本
タキシール#600	20m/本

## 2. プライマーの塗布

- 目地の既設シーリング材の状態が悪い場合(切れ・ひび割れ・チョーキング等)には、打ち換えを実施してください。
- 下地外周に端部処理材の仕上げ代として、5~25mmの隙間を設け、けがき線を入れてください。
- 目地部内部・周辺にタキボンド#625を刷毛で巾80mm程度均一に塗布し、20~30分乾燥させてください。

※タキボンド#625が塗布されていないとタキボンド#650の接着力が発揮されませんので、必ず塗布してください。



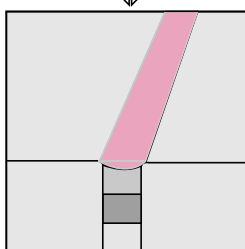
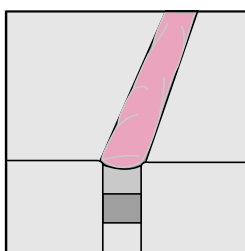
## 3. 下地段差の確認

- 目地部で隣り合う下地同士の段差を確認してください。
- ※段差によって、目地カバーの張り付け方向が変わります。
- ※1本の目地で段差の高低が異なる場合は、その程度によって高低を決めてください。

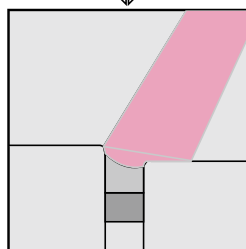
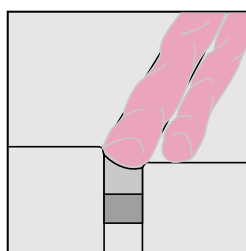
## 4. タキボンド#650の塗布

- 目地部にタキボンド#650を塗布してください。目地カバー張り付け時に空洞が生じないように適量を塗布してください。
- 塗布したタキボンド#650を皮スキ等で平滑に仕上げてください。
- ※段差がある場合には目地カバーで段差を緩和します。目地カバーが斜めになった場合でも、隙間が生じないように、下図のようにタキボンド#650を打設してください。

「段差がほとんど無い場合」

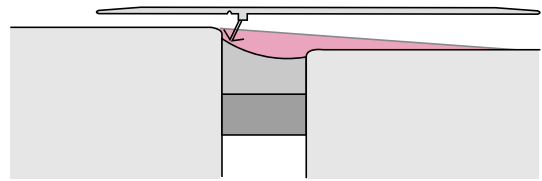


「段差がある場合」



## 5. 目地カバーの張り付け

- 目地カバー裏面の突起を目地にあてがいがながら、目地カバーを張り付けてください。下地に段差がある場合は、段差が高い方に目地カバー裏面の突起から短手側をあてがいます。



- 廊下巾方向を先に張り付け、長手方向は目地カバーを継ぎながら張り合わせてください。

※目地カバーを継ぐ場合は、200mm未満のものは使用しないでください。

- 張り合わせ後、直ちにハンドローラーを用いて、目地カバーを圧着してください。

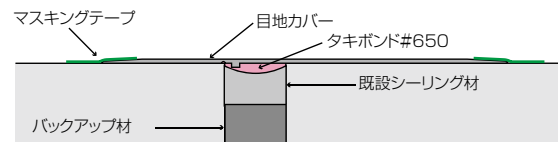
※圧着する方向によっては、目地カバーが凹みますので、ご注意ください。

※圧着時にタキボンド#650がはみ出した場合は、除去してください。

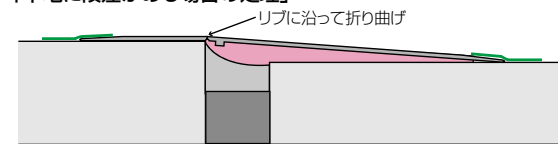
- 目地カバーの両端に付属のマスキングテープを貼り付けてください。

※マスキングテープは、目地の伸縮による影響を緩和する効果がありますので、必ず使用してください。

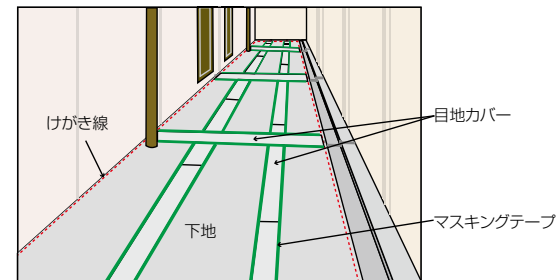
「下地に段差が無い場合の処理」



「下地に段差がある場合の処理」



「目地カバー施工図」



## 6. タキストロンの張り付け

「タキストロンの施工手順書に従って張り付けを行ってください。」

- 接着剤の塗布は、下地に塗布ムラができないように均一に塗布してください。特に目地カバーの周辺は接着剤が溜まりやすくなりますので、十分ご注意ください。

- 目地カバーとセメント成形板の上に塗布した接着剤のオープンタイムに差異が生じる場合があります。指触による確認は、目地カバーとセメント成形板の両方で実施してください。

- 圧着の際には、シート端部・継目部及び目地カバー周辺をハンドローラー等で十分に圧着してください。

- 端部処理にエポシールは使用できません。タキシール#600を使用してください。

- 重量物の運搬等は、接着愛硬化後(1~2日)、ベニヤ板等を敷いて車輪の跡形や傷をつけないように行ってください。

ご使用にあたっては製品安全データシート(MSDS)・施工手順書をご参照ください。